

〔三〕 次の文章を読み、あとの設問に答えよ。

A 「あはれ、折につけて、三位入道のやうなる身に、集を撰ひはべらばや。『千載集』こそは、^①その人のしわざなれば、いと心にくくはべるを、あまりに人にところを置かるるにや、さしもおぼえぬ歌どもこそ、あまた入りてはべるめれ。何事もあBいなくなりゆく世の末に、この道ばかりこそ、山彦Cの跡絶えず、柿の本の塵尽きず、とかやうけたまはりはべれ。まことに、聞き知らぬ耳にもありがたき歌どもはべるを、主の、ところにはばかり、人のほどに片去る歌どもにはかき混ぜず撰り出でたらDば、いかにいみじくはべらむ。

E いでや、いみじけれども、女ばかり口惜しきものはなし。昔より色を好み、道を習ふ輩多かれども、女の、いまだ集など撰ぶことなきこそ、いと口惜しけれと言へば、「必ず、集を撰ぶことはいみじかるべきにもあらず。紫式部が『源氏』を作り、清少納言が『枕草子』を書き集めたるより、さきに申しつる物語ども、多くは女のしわざにはべらずや。されば、なほ捨てがたきものにて我ながらはべり」と言へば、「さらば、なか、世の末にとどまるばかりの一ふし、書きとどむるほどの身にてはFべらざりけむ。人の姫君、北の方などにて隠るへばみたらむはさることにて、宮仕人としてひたおもてに出で立ち、なべて人に知らるばかりの身をもちて、『このころはそれこそ』など人にも言はれず、世の末までも書きとどめられぬ身にてやみなむは、いみじく口惜しかるべきわざなりかし。

昔より、いかばかりのことかは多かめれど、あやしの腰折れ一つ詠みて、集に入ることなどに女はいとかたかめり。まして、世の末まで名をとどむばかりの言葉、言ひ出で、し出でたるたぐひは少なくこそ聞こえはべれ。いと X わざなれり」など言へば、例の若き人、「さるにても誰々かはべらむ。昔、今ともなく、おのづから心にくく聞こえむほどの人々思ひ出でて、その中に、少しもよからむ人のまねをしはべらばや」と言へば、「ものまねは人のすまじかなるわざを。淵に入りたまひなむず」と言ひて笑ふ。

〔無名草子〕

問一 傍線部①「その人」はだれを指すか。最も適当なものを、次のなかから一つ選べ。解答番号は㉔。

- 1 紀貫之
- 2 紀友則
- 3 藤原定家
- 4 藤原俊成
- 5 藤原道長

問二 傍線部A「心にくく」、B「あいなく」の終止形の意味として最も適当なものを、次のなかから一つ選べ。解答番号はAは㉗、Bは㉘。

- | | | | | | |
|---|----------|---------|----------|-----------|----------|
| A | 1 不快を感じる | 2 癪にさわる | 3 心がひかれる | 4 不安である | 5 残念に感じる |
| B | 1 面白みがない | 2 情愛がない | 3 つらい | 4 寒々としている | 5 興趣がない |

問三 傍線部C「山彦の跡絶えず、柿の本の塵尽きず」に見られる修辞法として最も適当なものを、次のなかから一つ選べ。解答番号は㉙。

- 1 倒置法
- 2 掛詞
- 3 序詞
- 4 体言止め
- 5 隠喩

問四 傍線部D「人のほどに片去る歌どもにはかき混ぜず撰り出でたらば、いかにいみじくはべらむ」から読み取れる内容として最も適当なものを、次のなかから一つ選べ。解答番号は㉚。

- 1 歌の出来の良し悪しは、やはり作者の地位と関係がある。
- 2 撰者は、歌の出来の良し悪しのみで判断し、歌撰をおこなっている。
- 3 歌の心得のない自分でも、すばらしい歌が選ばれているとわかる。
- 4 歌が選ばれるかどうかには、作者の地位や身分も関係している。
- 5 様々な歌のなかから、適切に素晴らしい歌ばかりが選ばれている。

問五 傍線部E「女ばかり口惜しきものはなし」とあるが、その理由として最も適当なものを、次のなかから一つ選べ。解答番号は[31]。

- 1 情趣を好むのは良いが、感情にとらわれた行動をするから。
- 2 芸道を習ったとしても、名を残すに値する人物はいないから。
- 3 色欲におぼれるばかりで、道を踏み外してしまう人がいるから。
- 4 集に選ばれた歌は、出来がもう一步の歌ばかりだから。
- 5 それまでに歌集の撰者になつた人が出ていなかったから。

問六 傍線部F「はべらざりけむ」を説明したものとして、最も適当なものを、次のなかから一つ選べ。解答番号は[32]。

- 1 動詞連用形＋打消の助動詞未然形＋過去推量の助動詞連体形
- 2 動詞未然形＋打消の助動詞連用形＋過去推量の助動詞終止形
- 3 動詞未然形＋打消の助動詞未然形＋過去推量の助動詞連体形
- 4 動詞連用形＋打消の助動詞連用形＋過去推量の助動詞連体形
- 5 動詞未然形＋打消の助動詞連用形＋過去推量の助動詞連体形

問七 空欄 X に入るものとして、最も適当なものを、次のなかから一つ選べ。解答番号は[33]。

- 1 うつくしき
- 2 むつかしき
- 3 さだめなき
- 4 たとしへなき
- 5 ありがたき

問八 本文の内容と合致するものを、次のなかから一つ選べ。解答番号は□。

- 1 歌集に入った歌はどれもが例外なく素晴らしいものである。
- 2 和歌ではなく、『源氏物語』などの物語はすべて女性の作である。
- 3 笑い話に、「物まねをするに淵にはまってしまう」ということがある。
- 4 女性による和歌は、後世まで名を残すものが少ないと筆者は思っている。
- 5 歌は、奥ゆかしいと評判の人の作に、似せて作るのが最も良い方法だ。